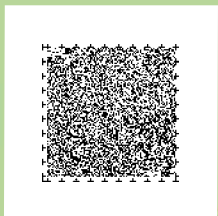




充実したキャンパスライフを送る立山さん

ありが ヒューマン ドキュメント



鹿児島国際大学
福祉社会学部 社会福祉学科

たち やま そう だい

【立山 颯大】さん

鹿児島市

大きな怪我を乗り越えて
社会福祉士を目指す

鹿児島国際大学に通う立山颯大さんは、志布志市出身の20歳。幼い頃から運動が大好きで、中学生時代には水泳(50m自由形)で日本一に輝きました。お母さんは当時を振り返り、「いつも友達と外で遊んでいました。捕まえた蛇を職員室に持ち込んで先生を驚かせたり、やんちゃな一面もありましたけど」と笑います。交通事故によって頸椎を損傷し、首から下の機能が麻痺したのは高校1年生の頃。落ち込む夜もありましたが、



社会福祉士を目指して勉学に励む

学友に囲まれて過ごす
充実のキャンパスライフ

「人と触れ合うことが好き」と話す立山さん。大学では積極的に講師や友達と交流し、ボランティアサークルにも所属。「知ること、学ぶことが多く、考え方や選択肢の幅が広がりました。健常者と

心の切り替えが早く、前への推進力を失わないのは水泳で培った強み。お母さんに一言「大丈夫だから」と告げると、大学への進学を決意。自らが障害を持ち、多くの方に支えられたことで、新たな夢が生まれました。立山さんは社会福祉士の資格取得を目指して、活躍の場をプールからキャンパスへ移しました。



ゼミ仲間のサポートと笑顔も大きな支え

障害者両方の気持ちがかかるので、体を動かせない分、口と頭を使って様々なアイデアを出していきたいと話します。趣味は音楽鑑賞。猫が好きで、実家には「先輩」と「後輩」という名の猫が2匹。黒猫のキーホルダーは大切な宝物で、携帯電話のカバーも猫型です。この夏には新たに電動車椅子を導入し、通学や構内の移動、休日の過ごし方など活動範囲は広がるばかり。立山さんとお母さんは「実家でシニアカーに乗るおじいちゃんと一緒に、車椅子で散歩ができるね」と笑顔で話しています。



仲間とボランティア活動に励む立山さん

